

# 令和3年度 学校自己評価システムシート(埼玉県立羽生高等学校)

目指す学校像	主体的に学ぶ力と豊かな人間性を育成し、地域に開かれた学校づくりを推進する。
重点目標	1 生徒個々の能力や適性を把握し、少人数の良さを生かした指導方法を工夫・共有して、基礎学力の定着に努める。 2 生徒の進路意識を高めさせ、進路実現を促す指導を推進する。 3 生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせ、社会性を培い、規律ある明るい校風づくりを推進する。 4 学校自己評価システムの効果的な活用を図り、広報活動の一層の充実に努め、地域の生涯学習機関として貢献する。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	4名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )	
番号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度
1	丁寧で、寄り添う日々の指導によって、生徒は様々な課題を抱えながらも、比較的落ち着いた態度で授業に取り組んでいる。引き続き、基礎学力の定着を図り、生徒の主体的な学びを引き出すことができるよう、更なる指導の充実が求められている。また、来年度の新教育課程への移行、観点別評価の実施に向け、具体的な取組が求められている。	・観点別評価を踏まえた授業改善と学習意欲の向上	①本校独自の観点別評価規準を策定するためのプロジェクトチームを発足させる。 ②円滑な観点別評価実施に向けての職員研修会を実施する。 ③研究授業等に加え、Google ClassroomなどICTを活用した指導方法の研究・実践に取り組む。	①プロジェクトチームを発足させ、本校の実態に即した観点別評価規準を策定することができたか。 ②研修会を実施し、教科及び個人で観点別評価実施に向けた準備を進めることができたか。 ③授業アンケート結果で、以下の項目において、肯定的評価率が前年度を上回ったか。 ア 授業に対する意欲・関心 イ 授業のわかりやすさ ④ICTを活用した授業実践やHR指導等の事例が前年より増加したか。	①「評価規準プロジェクト」を発足させ、年間で7回の会議を開催(令和4年1月末現在)。評価規準策定の手順を定め、来年度開講予定科目の具体的な評価規準、評価方法、特別活動の評価規準等について、各教科・関係分掌と連携しながら策定することができた。 ②職員会議や教科会を通じて、評価規準や評価方法の策定等節目ごとに観点別評価について共通理解を深めることができた。 ③授業に関するアンケートを実施し、「授業に対する関心・意欲」と「授業のわかりやすさ」の肯定的評価については、それぞれ89%と86%(昨年度72%と84%)であり、昨年度と比べ、特に関心・意欲が高めることができた。 ④ICTを活用した授業実践やHR指導の事例は、確実に増えており、日常的に活用する状況に向かいつつある。特に初任者は「Jam board」(共有ホワイトボード)を活用した授業実践を行うなど、新たな機能の活用を意識的に取り組んでいる。また、「総合的な探究の時間」において、アマガニスタンの支援活動を行っている「ベシヤール会」による講演会を「Zoom」で行い、今後の講演会の在り方について、新たなモデルとなった。	A
2	自らの進路実現に向け、主体的に行動する生徒が苦手な生徒が多い。自己肯定感やコミュニケーション力をはじめとする社会性を高める取組を引き続き進める必要がある。	・生徒一人ひとりの社会性の育成と進路希望の実現	①より効果的なキャリア教育・進路指導ができるようキャリア・パスポートや進路の手引きの運用等について改善を行う。 ②屋間部において今年度から実施する「総合的な探究の時間」を通じて、社会性の更なる育成を図る。 ③就職支援アドバイザーを活用し、進路行事の充実を図るとともに、就職希望の生徒により具体的で、適切な支援を行う。	①各年次において、キャリア・パスポートを活用した、効果的なキャリア教育を実施することができたか。 ②本校独自の「総合的な探究の時間」の教育プログラムを策定・実施することができたか。 ③就職希望者の内定率が100%となったか。	①各年次において、キャリア・パスポートを前期・後期それぞれにおいて定期的に活用した。特に各学期のはじめに、生徒各自が「目標設定」をすることで、生徒自身が自らの成長を具体的に振り返ることが比較的容易となり、進路指導・キャリア教育を行う上で有効であった。 ②屋間部の「総合的な探究の時間」について、担当教員を中心に、新たな年間プログラムを策定し、実施した。前期は国際貢献や環境問題等に関する10のテーマを設け、テーマに関する理解を深めると共に、探究学習の基礎を身につけるプログラムを実践した。後期は生徒自身が興味や関心に基づいて探究テーマを設定し、学習活動を進めた。 ③進路行事については、進路指導部と各年次が連携を密にし、ハローワークやサポートステーション、民間企業等とも連携しながら、進路実現につながる取組や進路意識を高める取組を実施した。また、就職支援アドバイザーを活用し、面接指導等を計画通り実施した。就職内定率100%を達成することができた。	A
3	中学校までに不登校を経験した生徒の割合が高い傾向が続いている。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、学習サポーター等と連携し、組織的・継続的に支援する必要がある。また、日々の学びの中で、人間関係を円滑にするコミュニケーションスキルを身につける必要がある。	・教育相談を活用した支援の充実とコミュニケーション能力の向上	①スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)、学習支援員等と連携し、組織的・継続的に生徒・保護者の支援を行う。 ②外部の特別支援教育コーディネーターを活用するとともに、情報交換会を実施し、教育相談や特別支援教育の視点を踏まえた指導のスキルアップを引き続き行う。 ③新課程から新たに設置する「コミュニケーション」講座の指導内容をプロジェクトチームで検討する。	①相談室だよりを月初めに発行し、SC、SSW、学習支援員の相談日程等の有益な情報提供を保護者に行い、相談や支援が十分できたか。 ②特別な支援が必要な生徒に対し、十分な相談体制を構築し、支援ができたか。 ③「コミュニケーション」講座の具体的な指導内容を定めることができたか。	①相談室だよりを月初めに発行し、SC、SSW、学習支援員の相談日程だけでなく、SCやSSW等からの教育相談に関するメッセージを掲載するなどして、より有益な情報提供を行った。また、SC、SSW、学習支援員のいずれか1名が、原則毎日教育相談室に常駐し、生徒や保護者からの相談を受け、様々な課題の解決や不安の払拭等に取り組んだ。また、教育相談部が中心となって、SCやSSWと連携し、情報交換を積極的に行い、共通理解の上、生徒支援を進めた。 ②年間2回の生徒情報交換会、外部の特別支援教育コーディネーターによる訪問支援、SCやSSWが参加するケース会議の適宜開催等、教育相談部を通じて、生徒の状況に柔軟に対応した支援を組織的に行った。支援を通じて個々の教員が教育相談的な視点等を踏まえた指導のスキルアップを図った。 ③プロジェクトチームを作り、年間で5回にわたる会議を開催し、具体的な講座内容を検討し、具現化した。	A
3	新型コロナウイルス感染症を防ぐための「新たな生活様式」が日常の習慣となっており、引き続き検温やマスク着用をはじめとする、昨年度からの取組を継続しつつ、指導に伴う教員の負担軽減を図る必要がある。また、SNSをきっかけとしたトラブルが増加傾向にあり、効果的な対策や指導が必要となっている。	・「新しい生活様式」の継続と啓発的な生徒指導の推進	①日々の検温やマスク着用、社会的距離の確保など、「新しい生活様式」の更なる定着に向け、年次や分掌等で、負担軽減を図りつつ組織的・継続的に指導する。 ②本校生徒の実態に即した、効果的・具体的な情報モラルに関する生徒指導の在り方を検討する。 ③生徒の「非対面コミュニケーション力」の向上を図る指導法について研究、実践を進める。	①「新しい生活様式」が日々の習慣として定着するとともに、教員の負担軽減を図ることができたか。 ②SNS等を原因とする生徒のトラブルが減少したか。 ③「非対面コミュニケーション力」向上のための指導法を明らかにし、実践することができたか。	①ガイドラインに基づき、保健環境部が中心となって、感染防止と教員の負担軽減の両立を図った。特に消毒体制については、不必要な消毒作業を省き、清掃時間に消毒作業を組み込むなどして、負担軽減を実現した。また、今年度は昼食時の感染防止を重視し、校内放送や巡回指導等を実施し感染防止に努めた。 ②授業「コミュニケーション」の指導内容を検討する中で、本校生徒の実態に即した、情報モラルに係る効果的・具体的な指導方法を検討した。また、日常の指導においても、適宜SNSの危険性やネットトラブル防止等に関する指導を行った。SNS等を原因とする生徒のトラブルは昨年度と比較し、減少傾向が見られた。 ③授業「コミュニケーション」の指導内容を検討するプロジェクトチームにおいて、「非対面コミュニケーション力」の向上のための指導法について研究を行った。その結果、ネットを介した人とのつながりの良さを実感させ、ネットリテラシーを高めることを基本方針とし、動画の活用やグループワーク等を通じて、力を向上させる指導プログラムを策定し、検証を兼ねた研究授業も実施した。	A
4	新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、今年度も学校行事や公開講座については感染症対策を留意しつつ、日程や実施内容の変更等を想定しなければならぬ。感染状況を踏まえた、適時適切な広報活動を行い、学校行事や公開講座を、安心安全な形で実施することが求められている。	・新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえた適時適切な情報発信 ・本校の魅力の積極的な発信と地域貢献	①日々の学校生活の様子を可能な限りホームページで発信するとともに、学校行事の日程等が変更した場合、迅速に情報発信を行う。 ②学校説明会(実施時期、実施方法等)や学校紹介動画の見直しを行い、本校を希望する中学生向けに、本校の魅力や情報を適時・適切に提供する。 ③感染状況を踏まえつつ、特別講座や公開講座等を可能な限り開講する。	①教育活動の様子やその他の学校情報を積極的に発信できたか。HPの更新数とアクセス数が増加し、効果的な広報活動ができたか。 ②学校説明会を見直し、新型コロナウイルス感染症対策を徹底の上、効果的に実施したか。また、学校説明会への参加者が増加したか。	①日々の教育活動をはじめとして様々な情報を積極的に発信した。HPの更新数は1/12時点で86回(昨年度同時期70件)、アクセス数は106,137(令和3年5月8日～令和4年1月19日、1日平均412)であった。 ②教務部が中心となって学校説明会の実施方法や実施内容、学校案内の内容の見直し等を進め、感染症対策の一環として、オンラインによる校内分散開催や校内見学動画の作成など、新たな取組を進めた。学校説明会の参加件数は第3回までで105件(昨年度同期79件)であった。 ③今年度も羽生市と連携して、特別講座や公開講座の募集を行った。今年度の実績として、特別講座を5講座開講し、延べ78名参加、公開講座を8講座開講し、のべ70名参加であった。さらに今年度は科目履修生1名の受け入れも行った。	A

学校関係者評価	実施日：令和4年3月
---------	------------

学校関係者からの意見・要望・評価等	・学習意欲について、関心を少しでも増やせたことは大きな一歩だと思う。 ・コロナ禍で思うように授業が進められないような日もあったと思うが、そのような中で、「授業に対する関心・意欲」と「授業の分かりやすさ」の肯定的な結果は、89%と86%と昨年度より上昇しており、とても良い結果となっている。教員の努力の結果が反映されている。今後も残りの10%の生徒に対する取り組みも考慮しつつ、引き続き学力に不安がある生徒への対応や人とのつながり、社会性を育てる取組を進めてもらいたい。 ・キャリア教育の観点から、「総合的な探究の時間」のプログラムを策定・実施した内容については、国際貢献や環境問題などを取り上げたり、生徒の興味関心のあるテーマにおいて探究学習を行ったことに関しては、グローバル化されていく社会の中ではとても良い取り組みである。 ・引き続き教育相談部を中心に、SC、SSW、学習支援員等と教員が連携して、悩みや課題を抱えた生徒に対して、組織的・継続的に支援をしていく。 ・授業「コミュニケーション」を年間を通じて円滑に実施することで、生徒のコミュニケーション能力の向上を図ることが求められる。担当者や年次が連携し、新入生の状況をふまえて、指導内容の更なる具体化を図っていく。 ・「非対面コミュニケーション」向上のための指導は、コロナ感染防止のための自粛生活が続く中、重要な取り組みであり、来年度も継続してもらいたい。
-------------------	--